

コスモス 10月号

第67巻 第10号

◆宮柁二カレンダー（7）十月の歌

いたづらにわが寂しまぬとききびし^{あめ}天の露霜^{つゆしも}
置きわたしたり
歌集『小紺珠』

初出は「短歌雑誌」昭和23年10月号。「この頃、巻脚袴と地下足袋で家を出、無暗矢鱈と山中や街中を孤りで歩き廻った」とあとがきに作者は記す。そうした苦悩と困憊の中で、ふと現実のつましさに立ち戻った、惑る秋の日の感懐が詠まれている。

万葉の流れを汲む下句、また、宮柁二作品に多用される「寂し」や、米川稔を詠んだ一連の「昼霜」と共に、好んで使われたと思われる「露霜」の語の見える作。柁二のことばに対する愛著と慎ましさを感じさせる一首でもある。
(森重香代子)